

試行版

安全運航で信頼を勝ち取ろう!

これでわが社も

運輸安全

マネジメント宣言!

小型旅客船  
事業者の  
皆様へ



# Contents

## 目次

- 01 はじめに
- 02 事故は予測できる!
- 03 「安全最優先」を合言葉に!
- 04 目標と取組計画で、気持ちを一つに!
- 05 兼務の負担を確認しよう!
- 06 運航水域のキケンを把握しよう!
- 07 経営と現場のコミュニケーションの機会をつくろう!
- 08 現場の「気がかり」は放置しないで活用しよう!
- 09 いつ起きても大丈夫なように、自然災害への備えを!
- 10 冷静に事故へ対応できるように訓練を!
- 11 人(船員等)の確保を見直そう!
- 12 船の安全性を担保しよう!
- 13 ルールを守る意識が大切!
- 14 継続した能力とスキルアップを!
- 15 地域とのコミュニケーションで情報収集を!
- 16 他社の失敗から、しっかり学ぼう!
- 17 日々のちょっとした記録が重要な事故対策に!
- 18 定期的な「振り返り」で将来の安全も見えてくる!
- 19 小型旅客船事業者向け 運輸安全マネジメントのススメ
- 20 運輸安全マネジメント評価とは&お役立ち参考資料



## はじめに

本パンフレットは、20トン未満の小型旅客船により、景勝地巡りやイルカウォッチング等を行う事業者の皆様、「運輸安全マネジメント」の理解を深め、取り組んで頂くために作成したものです。

「運輸安全マネジメント」とは、経営トップ等が主体となり、①自社の安全上の課題を把握し、②課題解決に向けた目標と取組を定め、③それを実行し、④1年間の総括と翌年の目標と取組を定める手順を繰り返すことで、安全性を向上させるものです。輸送の安全確保に向け、本パンフレットをご活用ください。

## Introduction

※このパンフレットは、小型旅客船事業者（小型船で人の運送をする事業者を含む）を対象としております。

### 参考資料

運輸安全 参考資料



<https://www.mlit.go.jp/unyuanzen/documents.html>



# 事故はなぜ起きる？

# POINT

## 事故は 予測できる！



安全運航のために、人(体調不良、経験不足等)、設備(船体及び通信設備等の保守整備が不十分)、環境(気象・海象の変化等)、管理(人材不足等)といった自社のリスクを把握しておく必要があります。

## 小型旅客船を運航するリスクの例

### 人に関するリスク

例: 運航海域上の知識や経験の浅い船長が運航する場合、正しい判断や操船が行えないリスク

### 設備に関するリスク

例: 船体及び設備に関する保守が不十分であった場合、事故に直結するリスク

### 環境に関するリスク

例: 気象・海象等の変化について、「これくらいは大丈夫だろう」と判断した場合、事故に直結するリスク

### 管理に関するリスク

例: 繁忙期の運航に必要な人員が十分に確保できていない場合、疲れや体調不良を原因とする事故が発生するリスク

# 社長の安全に対する本気度を見せよう!

もし安全方針を作っていなかったら…

社長からできるだけ出航しろと言われていたけど、風や波が強いから判断に迷うなあ…



POINT

合言葉に！  
「安全最優先」を

## 安全方針

- ・安全最優先
- ・法令遵守
- ・継続的改善

安全最優先

社長が安全方針を全従業員に周知!

経営トップは、「安全最優先の原則」等が盛り込まれた「安全方針」を策定し、全従業員に周知してください。その「安全方針」が合い言葉になることで、安全を最優先とした判断ができる風土となります。

社長の安全に対する本気度がわかったから、運航中止がしやすいです!



## 安全方針の例

1. 安全最優先で運航します
2. 法令を遵守し、安全のために定められたルールを守ります
3. 報告・連絡・相談を徹底し、安全に関する取組を継続的に改善します

# 安全運航のためにできること!

もし目標や取組計画がなかったら…



安全運航のために  
どんな取組をすればいいの?

運航のリスクに対  
する安全目標と  
取組計画を策定・  
周知!



安全目標や取組計画  
が決まっていること  
で、目的意識をもった  
安全行動を実施!



POINT

目標と取組計画で、  
気持ちを一つに!

経営トップや安全統括管理者を中心に、安全上の課題解決に向け、安全目標と取組計画を決めることで、従業員が具体的に何に取り組むべきかが明確となり、モチベーションの向上にも繋がります。

## 安全目標の例

1. 海難事故ゼロ
2. 船内転倒事故ゼロ

## 取組計画の例

1. 乗組員への定期的な救助訓練の実施
2. 運航中の船内移動注意案内実施

# 「あれも、これも」は事故に繋がる!?

## POINT

# 兼務の負担を 確認しよう!



経営トップからは、運航の可否判断も含め、船長と運航管理者を兼務する私に一任してくれているし、以前、判断に迷った時に出航しても、特に問題なかったなので、今回もきっと大丈夫!



誰かに相談しておけばよかった...



地元の漁師さんと連絡がとれるようにして、連携強化や緊急連絡手段を確保しておこう!

経営に注力しがちとなる経営トップが、船長に安全を管理する要職を兼務させ、一任した場合、相互にチェックする機能が脆弱となります。そのため、あらかじめ安全を管理する者を確保・育成しておくことが必要となります。

少ない人身体制による運航を行う場合、船長が安全を管理する要職を兼務することとなり、例えば、過去の成功体験をもとに「今回も大丈夫だろう」と不安な運航判断を行ってしまう可能性もあります。

この対応として、日頃から、近隣の同業他社や漁業関係者等との連携強化や自社で安全を管理する者を確保、育成する必要があります。

※なお、今後の運航管理体制のあり方は国交省HPにて確認ください

旅客船の総合的な安全・安心対策（海事局）

[https://www.mlit.go.jp/maritime/maritime\\_tk3\\_000086.html](https://www.mlit.go.jp/maritime/maritime_tk3_000086.html)



それ、キケンな航路です!

POINT

把握しよう!  
運航水域のキケンを

予想以上に天候が  
悪化しそうだ。特に  
沿岸海域は、座礁しな  
いよう注意してくれ!



こんな所に暗礁が…  
経験の浅い船長で、  
運航水域上の特性等  
を熟知できていな  
かった…



経験の浅い船長に  
対する教育・訓練  
を強化し、その有効  
性を記録で確認す  
ることとしよう!



経営トップや安全統括管理者等  
が、運航水域上の特性(気象、  
海象、暗礁、岩礁、潮流、突風、定置  
網、漁船の操業区域等)を把握し、  
必要となる教育や訓練等を実施  
することが重要です。

### 運航水域のリスクを 共有する方法

例:GPSプロッターや備え付けの海図な  
どに危険箇所や操船上の目印となる  
物標を落とし込み、全船員が情報共有  
できる仕組みを構築。



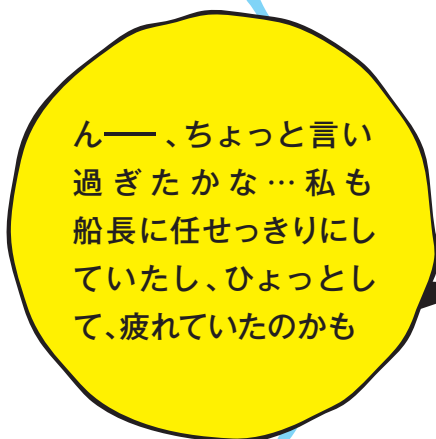
# 会話で防げる事故もある!?

## POINT

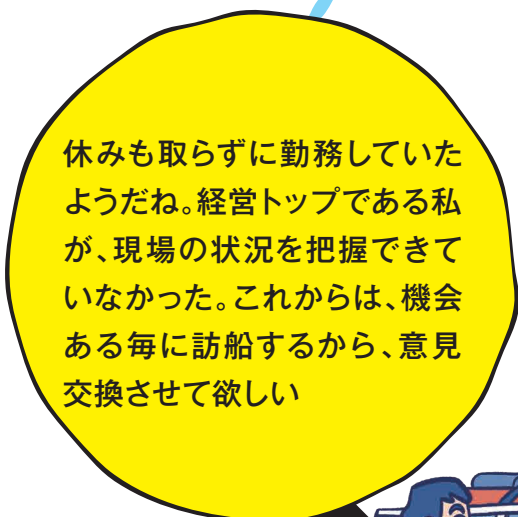
### 経営と現場の コミュニケーションの 機会をつくらうー!



どうしてこんな事故  
を起こすんだ! 注意  
していれば、防げる  
事故じゃないのか!



んー、ちょっと言い  
過ぎたかな…私も  
船長に任せっきりにし  
ていたし、ひよとして  
、疲れていたのかも



休みも取らずに勤務していた  
ようだね。経営トップである私  
が、現場の状況を把握できて  
いなかった。これからは、機会  
ある毎に訪船するから、意見  
交換させて欲しい



経営トップや安全統括管理者は現場が抱える安全上の課題等を把握するため、日々の意見交換や訪船活動を通じ、自社の安全上の課題を把握することが重要です。

#### 情報伝達の具体例

人間の特性として、複数の指示等を記憶することには限界があることから、例えば、必要な情報はメモや掲示板、スマホ情報共有アプリ等に記載し、ミーティング時に従業員へ配付するとともに、一定期間において、その情報について、問いかけて聞くことで、従業員の記憶に定着させることができます。

# 「気になる!」はキケンの合図?

## POINT

現場の「気がかり」は  
放置しないで  
活用しよう!

今日は浮遊物が多いな…まあ船体が傷つくほどでもないし



引継ぎ船長

午前、何かありました?

特に異常なし

なんだー?今日は浮遊物が多いな…あ、流木と接触した!



日々の気がかり事項(ヒヤリ・ハット情報)が共有されていないと、いずれ大きな事故にもつながります。経営トップや安全統括管理者等を含め全従業員に共有して、まだ事故に至っていない事項にも対応が必要です。

## 気がかり事項の活用事例

内容

改善策

### 事例1 旅客の乗降

足の不自由な方が岸壁と船の間に落ちそうになった

乗降口の甲板員配置と補助の再徹底

### 事例2 入出港

イルカの動向を注視していたら、潮に流されていることに気づかず、座礁しそうになった

甲板員にも必要となる運航海域上の特性等に関する知見等を教育し、当該知見等を踏まえた必要となる訓練を実施するなど、船長との連携を強化

### 事例3 回避操船

大型船や船団となった漁船の前を横切ろうとした際、思っていたより運航速度が速く、ぶつかりそうになった

大型船や漁船の往来する海域では、可能な限り、前方を横切ることを避ける等、早めの回避操船を行う

## 津波のことを知っておこう!

POINT

大丈夫なように、  
いつ起きても、  
自然災害への備えを!



突き上げるような  
衝撃があった  
から、地震かも  
しれない…

津波が来るかも…  
事務所に無線連絡  
して、状況を確認  
だな。あれ、誰も  
出ない…



津波の規模と到達時間が  
分からない…旅客の人命を  
最優先にするには、沖出し  
なのか着岸による陸上避難  
なのか…判断できない!



人間心理として、過去に被災しなかった経験をもとに「今回も大丈夫だろう」と判断する傾向があります。発災時に正しい判断が行えるよう、初動時の対応手順を定め、従業員へ周知しておくことが重要です。

## 自然災害への対応と備え

1. 限られた情報の中でも、避難、救助、救護が行えるよう、「人命の最優先」が盛り込まれた「防災の基本方針」を策定し、従業員にその内容を十分理解させる
2. 国や自治体が発行しているハザードマップ等を活用し、最も被害が出ると考えられる自然災害を特定する  
特に、大規模地震の発生に伴う津波が発生した場合には、短時間での避難が求められることから、あらかじめ、緊急時の避難手順を決めておく
3. 係留港や避難港への緊急帰港や最寄りの避難場所等への避難手順等を定めたら、定期的な訓練を実施し、必要となる見直し等を実施する

# 事故のとき…どうする？

## POINT

### 冷静に

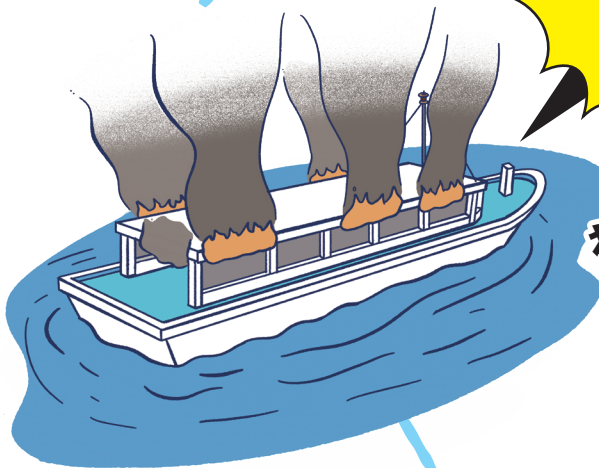
### 事故へ対応できる

### ように訓練を！

最近、他社で事故があったみたいだけど、うちはきっと大丈夫！



船内火災が発生した!どうしよう!



あれも、これも、すぐに対応しないとイケないけど、どこから手をつければいいのか分からない…



大きな事故が発生した場合、人は冷静な判断がしづらくなることから、経営トップ等も含めた重大事故に対する訓練を実施し、ルールに基づく行動と臨機応変な対応力を体験させることが重要です。

## 重大な事故等の訓練計画のポイント

重大な事故(衝突、乗揚、転覆、火災、沈没等)が発生した場合を想定し、経営トップから現場まで、どのように行動すればいいのかを明記した「対応マニュアル」を作成するとともに、当該「対応マニュアル」が有効なものになっているか、定期的な訓練等を行うことにより検証し、見直し・改善を図りましょう。

# 体調不良からの…事故!?

## POINT

### 人（船員等）の確保を 見直そう！



例えば、忙しくて船員が不足している場合、連続勤務による疲れで判断ミス等が発生する可能性があります。そのような場合、経営トップは、業務量と船員のバランスを見直す等の対策を行う必要があります。

### 船員労務管理のポイント

経営層（経営トップや安全統括管理者等）は、業務量と船員のアンバランスによる過重労働が発生していないか、休日出勤や残業時間の状況をモニタリングし、ムリが続いているようであれば、事故の予兆として捉え、必要となる対策を実施するなど、労務管理に努めましょう。

# 船の老朽化でも…事故!?

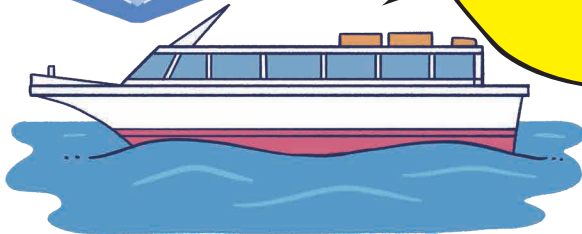
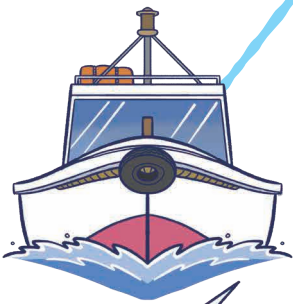
## POINT

### 船の安全性を 担保しよう!

そろそろこの船も  
30年か…点検して  
ても気になることが  
あるんだよね



最近、エンジン系統の  
不具合が頻繁に発生し  
ているなー



船体の老朽化に伴う強度の低下やエンジン系統の故障の増加は、重大な事故に直結するリスクが高くなります。定期的な点検と修繕による適切な管理を行う必要があります。

エンジン故障  
で、航行不能…



## 船舶への安全投資について

定期的に船長から意見を確認するなどして、中長期の計画を作成し、絶対に確保すべき修繕等から、優先順位を付けて、計画的な安全投資を検討ください。

# してます?アルコールチェック

## POINT

### 意識が大切！ ルールを守る



昨日は飲み過ぎたな…  
まあいつもなんとか  
運航できているから  
大丈夫か

うわ、操船を  
あやまった!



飲酒運航してはい  
けないのはわかっ  
ていたのだけど…



関係法令や社内ルールの遵守については、全従業員に対し、その成り立ちや趣旨も含めて説明する等、従業員1人ひとりの安全意識の向上を促す取組を行うことが重要です。

### 法令遵守等の取組ポイント

小型旅客船については、関係する法令等の改正が予定されていることから、運輸局等のホームページから最新の法令等を入手し、従業員に周知・徹底するとともに、理解・浸透の度合いや実践状況を確認する仕組みを作ってください。また、アルコール検知器等で確認した数値等を記録として残すとともに、飲酒運航に関する危険性について、必要となる教育を実施することが重要となります。

# ベテランだから大丈夫？

POINT

継続した能力と  
スキルアップを！

他の海域で小型船に乗っていた経験のある船長だし、操船技量は問題ないだろう！すぐに、船長として乗船してもらおう！



潮流に流され、座礁事故が発生！



潮の流れが速く、暗礁も多い海域です。まずは海域特性に関する知識と操船技量を身につけるまで、教育・訓練を実施させてください



自社の運航水域等を知らない船員を雇用した際、知識不足等による事故の可能性が高くなります。船員の経験年数に応じた教育等が実施されているか、教育内容等の効果を確認し、見直しする仕組みが大切です。

<参考>教育訓練の好事例  
東尋坊観光遊覧船の取組



東尋坊観光遊覧船 安全取組

## 技量教育訓練の例示

陸上員

甲板員

船長



- 全体の流れ
- ロープの取り方
- 乗客の安全最優先意識等の育成



- 各船の特性
- 機関、気象、船全般に係る知識
- 足さばき・作業手順の修練



- 海域特性の熟知
- 運航可否判断
- 風波による操船技術の習得



## 近隣との交流…してます？

# POINT

# 地域との コミュニケーションで 情報収集を！



今日は午後から天候が急変する予報だから、出航するのは控えた方がいいよ！



やっぱり、荒天になったけど大丈夫かな!?



これからは、地元の海を知っている漁師さんの意見に耳を傾け、安全を最優先とした運航判断を行うようにします



近隣の漁業組合や同業他社、海保等との連携強化を図り、荒天に関する情報共有や重大事故発生時の人命救助について、日頃から協力できる関係性を構築されることを検討ください。

### 地域との交流の重要性

運航水域上の特性を熟知している漁業関係者の運航判断は、参考となる貴重な情報となります。日頃より、漁業関係者や同業他社との顔の見える関係性を作っておくことが重要となります。また、地域によっては、同じ港湾内の関係者だけでなく、同一の運航を行っている他の地域にいる事業者と協議会を立ち上げて、相互に訓練や勉強会を開催しています。

# 自分は大丈夫…は事故の予兆!

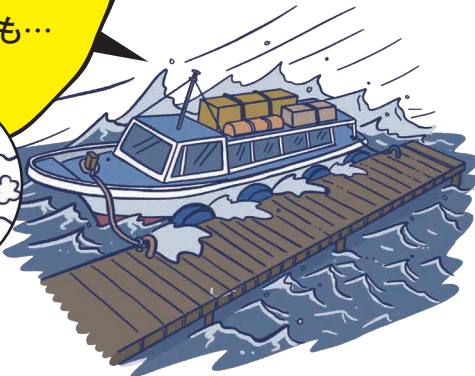
この間、海難事故があったみたいだけど、うちの航路と環境が違うから関係ないよね



あ、同じような事故が発生してしまった



他社の事故もうちの事故も、経験の浅い船長を雇用し、すぐに運航させていたことが事故の原因かも…



## POINT

他社の失敗から、  
しっかりと学ぼう!

事故が発生していない場合は、他社で発生した事故情報等を活用し、従業員同士で議論する場を設けると、危険に対する意識を高められ、より安全な運航につながります。

### 他社の事故を収集する例

輸送の安全に関する取組事例が国土交通省のHPに掲載していますので、下のようリンク先から情報収集して、安全運航に活用ください。

メールマガジン(運輸安全)

<https://www.mlit.go.jp/nyuanzen/mailmg.html>



## 航海日誌でも…事故は防げる!

POINT

日々の

ちよつとした記録が

重要な事故対策に!



航海日誌等の日頃使用する記録に、その日あった船体の傷や気がかり事項等を記録しておく、毎回同じ航海のようであっても日々の変化に気づくきっかけとなり、重大な事故を未然に防ぐ手立てになります。

## 記録と管理の重要性

運航において、多くの書面を用意するよりも、航海日誌などの日々使用しているものに追記したり、スマホアプリを使って地域関係者と連携するとともに、電子的な記録として保管している事業者もいます。やりやすい記録と管理の方法を検討しましょう。

# これからも安全運航するには？

## POINT

定期的な「振り返り」で  
将来の安全も  
見えてくる！

今年の運航は  
どうだったかな？



訓練後や閑散期  
に航海日誌を見て  
1年間を振り返り



今後の安全運航の  
ため、改善すること  
がないか確認！



今年は、操業中の漁船  
と接触しそうになった  
から、来年は、他船の  
前を横切らないよう  
運航することとしよう



経営トップ等が中心となっ  
て、少なくとも年1回は、これ  
までの安全に関する取組につ  
いて「振り返る場」を設け、  
取組が有効であったか総括し、  
次年度の取組に反映させるこ  
とが重要です。

## 安全管理の取組状況の点検と改善

下の例のように、安全目標や取組計画の達成状況や、事故、ヒヤリ・ハット情報から、安全管理全体の取組をチェックリスト等を活用することで点検し、さらなる安全運航を目指して、次の目標や取組の改善につなげることを推奨。

例：事故ゼロは達成したが、取組計画にあった津波の沖出し訓練が多忙でできなかったため、来年度は、閑散期に実施。

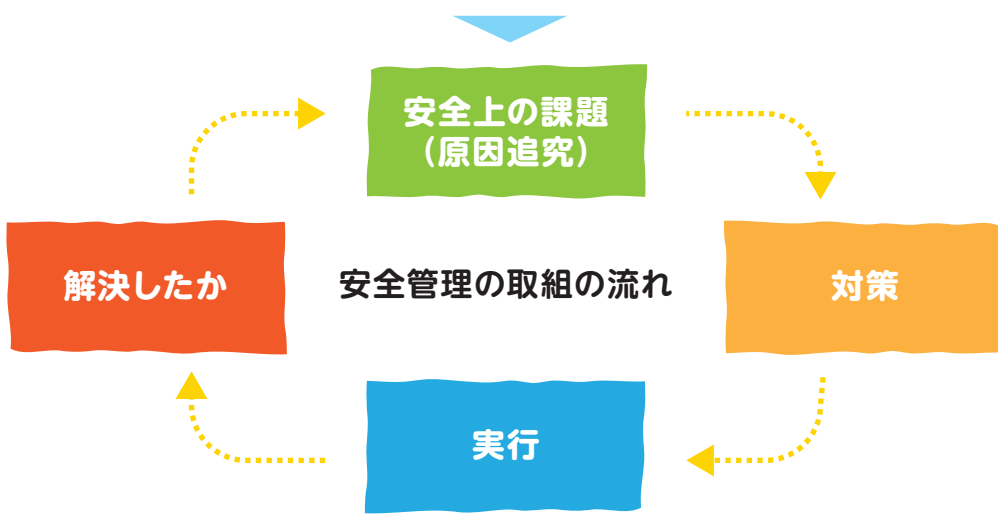
小型旅客船事業者向け

運輸安全マネジメントのススメ

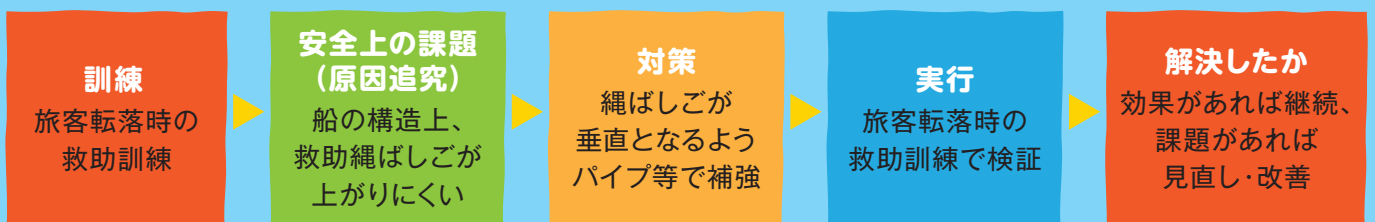
運輸安全マネジメントとは

お客様に安心して乗船して頂くためには、安全の確保が最も重要となります。経営トップ等が主体となり、①安全上の課題を把握し、②課題解決に向けた目標と取組を定め、③実行し、④1年間の総括と翌年の取組を定める手順を繰り返すことで、輸送の安全性を向上させるものです。

経営トップ等の安全の取組への関与・責務遂行



運輸安全マネジメントに沿った取組事例



**現場海域を想定した訓練**

座礁時の救助・曳航訓練

- ① 浅瀬に乗り上げ無線で救助要請
- ② 救命胴衣着用方法の説明
- ③ 待機中の船を救助に向かわせる
- ④ 座礁船を沖へ曳航する
- ⑤ 横付けし乗客を移動させる
- ⑥ 落水者の救助
- ⑦ 近くの港まで曳航する

**問題点の発見と改善**

落水時の救助訓練

- ① 救助船は風下から落水者に近づく
- ② 甲板員は救命浮環を投入
- ③ 緊急用の梯子まで誘導し救助する

見つけた梯子(図1)・オーバートンブになり自力で上がることができなかった(図1)

改善案(図2)・船サイドのスペースを埋めるパイプを追加(図2)

【出展】東尋坊観光遊覧船株式会社HP

## 運輸安全マネジメント評価とは？

国が経営トップや安全統括管理者等に対してインタビュー等を実施し、確認させて頂いた輸送の安全の確保に関する取組について、継続して頂きたい事項や改善の余地がある事項をアドバイスする制度です。



## ● お役立ち参考資料

### 参考資料



小冊子、パンフレット、  
研修教材

<https://www.mlit.go.jp/unyuanzen/documents.html>

運輸安全 参考資料



旅客船の総合的な  
安全・安心対策に  
関する国交省HP  
リンク

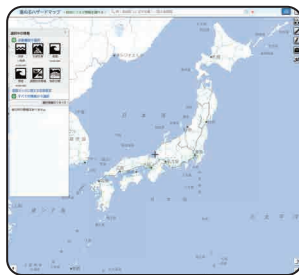
最新の法令関係等の  
情報

海事 安心・安全



## 重ねるハザード マップ

津波や高波の情報

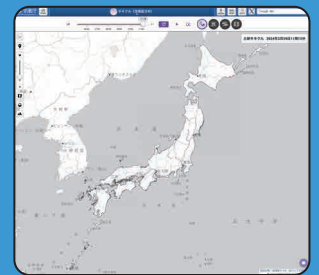


重ねるハザードマップ



## 気象庁キキクル

現在の浸水危険予測  
など



気象庁 キキクル



## 運輸安全取組事例

他社・他業界での  
好事例情報

[https://www.mlit.go.jp/unyuanzen/unyuanzen\\_torikumi.html](https://www.mlit.go.jp/unyuanzen/unyuanzen_torikumi.html)



運輸安全 取組事例



## 運輸安全委員会 報告書

小型旅客船の事故  
情報



運輸安全委員会 報告書検索 船

